

小学校家庭教育学級・MCR 学級合同閉級式及び家庭教育講演会

1 目的

- ・小学校家庭教育学級生及び MCR 学級合同閉級式及び家庭教育講演会を開催することで、家庭教育学級生が家庭教育の重要性について再認識するとともに、今年度の活動を振り返り、次年度の学習意欲を高める。

2 日程・会場・参加人数

2月14日(金)10:00~12:00 松戸市民劇場ホール
当日参加者 30名 一時預かり利用者 なし

3 内容

(1)開式

主催者挨拶 松戸市教育長 波田 寿一 氏

波田教育長の挨拶では、一年間の各学校の家庭教育学級運営へのお礼と労い、次年度に向けての思いを込めたお話をさせていただき、講演についての紹介も兼ねたものでした。各学校における「家庭教育学級」の今年度の振り返りと次年度に向けての期待が高まったようです。



(2)講演

演題 「ヒトの能力～現代文化への警鐘 子育ては誰のためか?～」

講師 前 松戸市教育長 伊藤 純一 氏

(3)質疑応答

(4)閉会

4 概要

講演会は「ヒトの能力～現代文化への警鐘 子育ては 誰のためか～」という演題で約90分話されました。まず、ゴリラのボノボを引き合いに出し、ゴリラの子育てとヒトの子育ての違いを説明され、幼児から児童への転換期の育児や、10歳の壁、ペリー就学前プロジェクト、スマホと学習成績などの話を展開しながら現在の子どもを取り巻く環境、ICT化や子どもの将来を阻んでいるもの、そして学習指導要領や社会が子どもたちに求めていることなどを通して、伊藤氏が教育者としてこれまで松戸市の教育で目指していたものやこれからに期待することが熱く



語られました。子どもたちにとって「我慢すること」のために「面倒くさいことをなくさないこと」、「コミュニケーション」、「競争すること」「議論すること」などが大切であることを話され、そして「子育て・教育はみんなで」という長年、氏が訴えてきたフレーズで講演を締めました。

せっかく素晴らしい示唆を与えてくださる内容がたくさんあった講演でしたので、もっと多くの学級生に聞いてほしかったという思いが強く残りました。

5 参加者の主な感想

- ・面倒くさい事や嫌な事をなくしてしまえば良いという保護者が増えてきている中で、改めて伊藤先生にみんなで集まる事の大切さの話で確認させてもらうことができました。
- ・子育て・教育はみんなでやるものだということが再認識できました。家族にももっと接してもらえようように話してみようと思えました。動物の話も興味深かったです。
- ・伊藤先生のお話でまた子育てがんばろうと思いました！！
- ・「個化」というキーワードは初めて聞きましたが、これからの時代に求められる資質など、子育てに生かしていきたいと思えます。
- ・子ども達にとって、これからどんな力が必要かを考えさせられました。私達ができることは何なのか？じっくり考え、子ども達とも話し合いをしたいなと思えます。“議論”もしっかりしていきたいです！！そして家庭教育学級においても皆で集まって、コミュニケーションをとりながら、よりよい時間にしていきたいなと思えます。